



掛け替えない人



国	籍	ベトナム
職	種	電子機器組立て
実習実施者		株式会社村田産業
監理団体		GMT協同組合

グエン ティ ビン
NGUYEN THI BINH

令和6年、ちょうど家族が集まって新年を迎えていた元旦に、能登半島に大きな地震と津波が突然起こりました。その災害をテレビを見て、本当に心が痛みました。そして、何と人のいのちは短いことだろうと、目頭を熱くしながら、喪失感を味わいました。

私は、3年前に労働者として日本に来ました。日本へ来た第一の理由は、家族の経済を助けることでした。第二の理由は、小さい頃からよく耳にしたことは、日本人の忠実さと謙虚さのことです。それで、これは良いチャンスだと思い、日本へ行くことを決めました。

日本で一人暮らしをして、家族の存在の大きさに初めて気づきました。私の人生に行き詰まった時に、生きる意味を気づかせてくれた人を思い出し、頭を下げたいと思います。私をこの世に送り、一生懸命育ててくれた両親はもちろん、私の心に刻まれた掛け替えのないもう一人は私の祖母であり、私の二番目の母でもあります。

両親は、私たちを養うために毎日畑の仕事で忙しく、子育てには手が回らないほど時間がなかったことが記憶に残っています。それで母に

代わって家事をし、私たちの面倒を見てくれたのは祖母でした。食べることから服や寝ることまで全部祖母の手でしました。祖母の愛のおかげで、私たちは今日ここにいると感じています。さらに私がいつも誇りに思い、尊敬している祖母の特別なことは、私の人生のあらゆる出来事において、いつも支えてくださったことです。

人間はこの世に生まれ、普通は目が2つ、手も2本、足も2本あります。しかし、祖母は私たちと同じように2つの目は見えませんでした。なぜなのかそれは分かりませんでした。また兄弟たちを背負っていたため、祖母の背中丸く曲がってしまいました。しかし祖母からは苦情や文句などを聞いたことがありませんでした。とても不思議に思っていました。祖母の顔には、常に微笑みと喜び、内なる平和が輝いていると深く感じていました。祖母が左の目を失った出来事は、お茶を摘みに行った際、滑って枯れ枝が左目に刺さってしまったのです。右の目は、網膜の手術の後遺症により徐々に衰えて、見えなくなったと両親から聞きました。

祖母は生涯をかけて私の世話をし、育ててくれましたが、祖母の最期の人生の時、私は家族の元に帰り祖母を抱きしめ、祖母に心から「ありがとう、大好きですよ」と言いたかったのですが、もう間に合いませんでした。私の願いは、永遠に実行することが出来なくなりました。2023年12月3日に祖母がこの世を去り、祖父の傍の天国へと戻りました。

愛する祖母を亡くしてから、この世に生きている間に、大切な家族を大事にしたいと決心し、これから人生において頑張りたいと思います。